

ビワ生育情報

第 1 報
千葉県農林水産部
令和7年10月号

本年の花房発現期は「楠」は平年より遅く、「大房」、「田中」は平年並みです。

10月からは摘房・摘蕾を行います。適期に作業し、品質の揃った果実を生産しましょう。

花房及び樹の発育

花房発現（出蕾）期は表1のとおりである。「楠」は9月19日で、平年より4日、前年より1日遅かった。「大房」は9月19日で、平年と同日、前年より5日早かった。「田中」は9月16日で、平年より1日遅く、前年より1日早かった。花房発現期は、「楠」は平年より遅く、「大房」、「田中」は平年並みである。花房数は平年より多い傾向にあり、摘房による花房数の調整が重要である。

新梢の発生は多く、樹の生育は順調である。

表1 花房発現期（暖地園芸研究所）

品種	本年 (月.日)	平年 (月.日)	前年 (月.日)
楠	9.19	9.15	9.18
大房	9.19	9.19	9.24
田中	9.16	9.15	9.17

平年：1995年～2024年の30年間の平均

花房発現期：中心枝の10%が出蕾した時期

令和7年7～9月の気象

令和7年7～9月の気象を表2に示した。7月の月平均気温は27.6°Cで、平年より2.4°C高く、前年より0.3°C低かった。降水量の月合計は52mmで、平年の30%、前年の51%であった。日照時間の月合計は264時間で、平年の147%、前年の105%であった。

8月の月平均気温は28.4°Cで、平年より1.7°C高く、前年より0.3°C低かった。降水量の月合計は29mmで、平年の27%、前年の12%であった。日照時間の月合計は272時間で平年の125%、前年の115%であった。

9月の月平均気温は26.3°Cで、平年より2.6°C高く、前年より0.4°C低かった。降水量の月合計は135mmで、平年の61%、前年の96%であった。日照時間の月合計は200時間で平年の131%、前年の102%であった。

表2 令和7年7～9月の気象（アメダス館山市）

月	半旬	平均気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
	1	27.3	23.8	27.1	0	37	7	30	23	44
	2	28.7	24.4	28.3	1	39	0	47	26	51
7	3	25.7	25.0	26.1	42	34	78	14	28	21
	4	27.4	25.4	27.0	10	26	18	41	30	30
	5	28.3	25.9	29.2	0	21	0	62	32	58
	6	28.0	26.4	29.6	0	19	0	70	42	49
	平均/計	27.6	25.2	27.9	52	176	103	264	179	252

月	半旬	平均気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
8	1	28.6	26.8	27.8	18	12	0	42	37	51
	2	28.7	27.0	29.0	12	14	0	32	37	38
	3	26.9	26.9	30.1	0	18	0	22	36	55
	4	28.4	26.7	29.4	0	19	65	56	35	37
	5	28.8	26.5	28.2	0	19	38	54	34	30
	6	28.8	26.1	27.8	0	24	135	66	38	26
平均/計		28.4	26.7	28.7	29	106	238	272	218	237
9	1	28.2	25.7	26.7	107	28	69	30	30	22
	2	27.7	25.2	27.9	0	36	3	48	29	52
	3	27.1	24.3	28.8	22	39	8	24	27	50
	4	26.6	23.3	28.3	2	39	17	28	25	41
	5	23.2	22.3	24.9	0	40	2	38	22	26
	6	24.9	21.4	23.7	5	40	44	32	21	5
平均/計		26.3	23.7	26.7	135	222	141	200	153	196

※ 各気象データについては暖地園芸研究所内の観測機材が不調のため、アメダスデータ（館山市）を引用

11月の管理

11月月中旬には主要品種の開花が始まる。10月から引き続き行っている摘房・摘蕾は開花前に終わらせたい。アブラムシの防除は摘房・摘蕾の終了後に行う。

摘房・摘蕾

10月から11月にかけて摘房・摘蕾を行う。摘房では最終的な着果率（全ての枝に対して果房が着生する枝の割合）が約60%になるように調整する。発育不良の花房や混み合った花房等を間引いて1樹内の花房数を調整する。

摘房を行うと、残した花房が充実するので、開花、結実及び幼果の初期生育が良好に進み、品質の揃った果実を生産することができる。また、余分な花房が少なくなるので、摘果作業が軽減される。

摘房と同時に摘蕾を行う。摘蕾では花房基部から3段目までの小花梗枝（花房の枝）の中から充実した2段を残して他をかき取り、花房内の花数を調整する。摘蕾は、残された蕾の充実を促すので、摘房と同様の効果がある。花房の長さが3～5cmに生長して、下部の2～3段の側花こうが分離した頃が作業しやすく、花房全体の開花期を延長することができる。開花期の延長により、幼果の発達時期を遅らせ、寒害を回避しやすくなるので、この時期を逃さずに摘蕾を行う。

アブラムシの防除

ビワに寄生するナシミドリオオアブラムシはビワの葉裏の主脈に沿って加害する。寄生された葉は紅（黄）葉し、次々と加害しながら繁殖していくので、短期間のうちに甚だしい落葉を見ることがある。また、排泄物はすす病を誘発するため、樹勢が著しく低下する場合もある。防除は発生状況を見て隨時行う必要があるが、発生初期が効果的である。11月には他の植物からアブラムシが移り、繁殖期に入るので、この時期の防除は重要である。

発行：千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>